

令和8年度

丹波市教育方針

人を愛し ふるさを想い
しあわせのカタチを創造できる 人づくり

丹波市教育委員会

令和 8 年度丹波市教育方針

ただいま、議長の許可をいただきましたので、教育長として、令和 8 年度の教育方針を述べさせていただきます、議員の皆様、市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

1 はじめに

認定こども園も含め、今、学校で学んでいるこどもたちが社会の中心になって活躍する 21 世紀半ばの社会は、少子高齢化、デジタル化、グローバル化がさらに加速し、不確実で複雑な社会になるといわれています。グローバル化は社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や生成 AI などの発展は私たちの生活を変化させつつあります。こうした影響が社会のあらゆる領域に及んでいる中で、教育の在り方も新たな局面を迎えていることは明らかであります。

将来の変化を予測することが困難な時代を前に、こどもたちには、様々な変化に対応できる力や、「自分らしい生き方」を主体的に選択・創造する力が求められています。これらの資質能力をはぐくむため、就学前の教育・保育を提供いただいている認定こども園と連携しながら、学校では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進し、着実に成果を積み上

げてきましたが、まだまだ道半ばです。これまでの蓄積を踏まえつつ、新しい時代にふさわしい学びの在り方を常に求め、学習者主体の教育をさらに推進してまいります。

また、特別な支援を必要とするこどもや日本語指導を必要とするこどもの増加のみならず、いじめ、不登校など、こどもを取り巻く課題も多様化・複雑化しています。一人ひとりの教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるよう教職員の特別支援教育に関する専門性の向上に重点的に取り組むとともに、いじめや不登校対策について、令和8年度から令和9年度の2か年を取組強化期間とし、すべてのこどもが幸せを感じながらいきいきと輝く教育を推進してまいります。

さらに、教育は言うまでもなく、単に学校だけで行われるものではありません。家族との触れあい、友達との遊び、地域の人々との交流が、こどもの健やかな成長に繋がります。変化の激しいこれからの時代を生きる力をはぐくむためには、社会全体でこどもたちの教育に取り組むことが大切です。

そして、私たち大人も、よりよい社会の形成者として学び続ける必要があります。丹波市の豊かな教育資源をいかし、大人もこどもも、ともに自分らしく学べる社会教育を推進してまいります。

そのため、教育委員会では、第3次丹波市教育振興基本計画

の基本理念「人を愛し ふるさとを想い しあわせのカタチを創造できる 人づくり」に基づき、各施策に取り組んでまいります。

2 具体的施策

それでは、具体的施策について、令和8年度の重点施策を中心にご説明申し上げます。

(1) 一人ひとりを大切にしたきめ細やかな教育の推進

1点目は、「一人ひとりを大切にしたきめ細やかな教育の推進」でございます。

特別支援教育に関する教職員の専門性のさらなる向上をめざし教職員研修を充実させるとともに、2年目となる特別支援教育専門家チームにより、専門的かつ多面的な視点から学校や保護者への相談・助言・指導を実施し、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育の充実を図ります。

また、特別支援教育にかかる効果的な施策を研究するため、有識者、学校教育関係者で構成する特別支援教育プロジェクトチームを新たに設置します。

さらに、学校に行きづらい児童生徒の将来の社会的自立に向けて、教育支援センター「レインボー」と丹波市地域つながりセンター「ここから」との連携を深め、長期的な視野に立った

支援体制を整備します。

近年、いじめや不登校などの生徒指導上の様々な課題は増加傾向となっており、教育関係者のみならず、広く市民の皆様の憂慮するところであり、その解決を図ることは教育の喫緊の課題となっています。

教育支援センター「レインボー」を核として、様々な特性や背景を持つ子どもを誰一人取り残さない、すべての子どもたちの可能性を最大限に引き出す教育をめざして、児童生徒への支援の充実と、教職員の指導力向上を一体的にすすめてまいります。

(2) 部活動の地域展開の推進

2点目は、「部活動の地域展開の推進」でございます。

部活動の地域展開を推進するため、認定地域クラブへの補助金制度を新たに設け、地域や家庭、関係機関と連携しながら、中学生がやりたいスポーツ・文化芸術活動を継続できる環境を整えます。

部活動は、これまでスポーツ・文化芸術活動に興味・関心のある生徒が自主的・自発的に参加し、体力や技能の向上を図るだけでなく、生徒同士や、生徒と教師との好ましい人間関係を構築すること、自己肯定感、責任感、連帯感をはぐくむ活動と

して教育的意義を担ってきました。

しかしながら、少子化が進み、今後も引き続いて生徒数の減少が見込まれる中、中学校の部活動は存続の危機に直面しています。

今回の地域展開を学校と地域の連携・協働による地域ぐるみの人づくりの好機と捉え、令和8年度においては、9月以降、休日の教員による部活動指導を終了し、丹波市認定地域クラブ活動への展開をすすめていきます。

休日部活動を担う地域団体及び指導者の確保など困難な点はございますが、地域展開をすすめていく中で、最も重要視したいのは指導者の適格性であります。こどもたちの発達段階や特性、心理面に十分配慮し、勝利至上主義に走らないなど、指導が適正にできるか、かつ、これまでの教育的意義を継承できるかどうかを十分に検討し、認定していきたいと考えています。そういった点を十分理解していただける団体に、部活動地域展開支援事業として当面必要となる運営資金を補助し環境整備をすすめてまいります。

(3) 乳幼児期の教育・保育の推進

3点目は、「乳幼児期の教育・保育の推進」でございます。

令和7年度は組織改編により教育部は5課 13 係となりました

た。認定こども園等に関することと、放課後児童健全育成事業に関することに加えて、前年度まで学校教育課で所管していた幼児教育・保育の充実に関することを一体化し、こども育成課を編成しました。

教育長就任当初から市内の小・中学校と、すべての認定こども園や関係施設を訪問する中で、乳幼児期の教育・保育と小学校教育の円滑な接続のためには、乳幼児期の教育・保育を担う施設と小学校がこどもをまんやかに置いて、連携・協働していくことが不可欠であると考えてきました。

幼児期から児童期への教育の流れを意識すれば、幼児教育・保育は知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力などの「確かな学力」、倫理感や協調性などの「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康・体力」からなる「生きる力」の基礎を、遊びを通して育成する役割を担っています。すべてのこどもが格差なく、小学校での学びへと円滑に接続できるよう幼児期及び架け橋期の教育の質を向上させるとともに、各地域の特性をいかした架け橋期カリキュラムの作成を継続して支援していきます。

また、乳児等通園支援事業（通称：こども誰でも通園制度）の本格実施に伴い、実施施設を増やし、こどもの育ちのための良質な環境整備を図ります。

さらに、保育分野における人材不足の解消に向け、保育士資格がなくても保育現場で働けるようにする「子育て支援員」を養成するため、子育て支援員研修を3年ぶりに実施し、地域の子育て支援を担う人材の確保と、その資質の向上をめざしてまいります。

(4) 地域学校協働活動の充実

4点目は、「地域学校協働活動の充実」でございます。

丹波市では、全小・中学校にコミュニティ・スクールを設置しており、地域、保護者、関係団体などの幅広い方々の参画を得ながら、こどもたちの学びや成長を支えています。

学校と地域の連携をさらに強化するため、地域と学校の橋渡し役である地域学校協働活動推進員を全小学校に配置するとともに、地域づくり交付金に地域学校協働活動にかかる経費を上乗せし、地域と一体となって取組をすすめる体制を整備します。

また、学校と地域が話しあい、目標や課題を共有する仕組みであるコミュニティ・スクールとその目的達成のための活動を具現化する地域学校協働活動の一体的推進を通じ、こどもの育ちに関わる大人を増やし、地域全体でこどもをはぐくむ意識の醸成と環境整備を行い、学校（学び）を核とした地域づくり、

人づくりの実現をめざしてまいります。

(5) 丹波竜化石発見 20 周年記念事業 大恐竜展の開催

5 点目は、「丹波竜化石発見 20 周年記念事業 大恐竜展の開催」でございます。

丹波竜化石が平成 18 年度に発見されてから令和 8 年度に 20 周年を迎えます。これを記念し世界で初めて発見された新属新種の恐竜の全身骨格を展示の目玉として、秋に「白亜紀の恐竜」をテーマに特別展を開催します。

たんば恐竜博物館は本年度 7 月のリニューアルオープン以来、半年間で過去最高の年間入場者数を更新しており、市内のみならず、多くの地域の方々の学びの拠点へと成長を続けております。

秋の特別展では、常設展では学習できない化石などについて学ぶ機会を提供するとともに、たんば恐竜博物館が丹波市の「自然」「歴史」「環境」「教育」を未来へと継承する拠点施設となるよう努めてまいります。

(6) 親しみを感じる図書館づくりの推進

6 点目は、「親しみを感じる図書館づくりの推進」でございます。

丹波市図書館ビジョンの基本理念である「市民に寄り添いともに学ぶ、つながる、つくる みんなの図書館」をめざして様々な取組を展開していきます。

市立図書館では、市民の知的活動の拠点として、資料の収集や保存、情報提供を行うほか、多様な主体との協働による図書館運営を推進し、時代の変化や市民ニーズに対応した柔軟な取組を展開することにより「市民に親しみのある図書館運営」をめざし、この3月に「丹波市図書館基本計画」を策定します。

図書館が人と人とのつながりを大切にし、まちのにぎわいを生み出す拠点として、すべての市民が利用しやすく、安心して過ごせる居場所となるよう取り組んでまいります。

また、近年では、インターネットやスマートフォンの普及など、情報通信手段の多様化がますます加速する中で、こどもの読書離れや読解力低下が指摘されています。

こどもたちを取り巻く社会情勢の変化や時代のニーズに対応するため、電子図書館の学校利用向けコンテンツをさらに増やし、GIGA スクール構想の下で整備された1人1台端末を積極的に活用した利用をすすめます。

さらに、学校図書館と公共図書館の相互の連携を強化することにより、こどもの読書活動を推進してまいります。

(7) 学校給食の無償化

7点目は、「学校給食の無償化」でございます。

国の「給食費負担軽減交付金事業（仮称）」を活用し、小学校児童全員の学校給食を無償化するとともに、引き続き中学校生徒全員の学校給食無償化に取り組みます。

本市はすべての小・中学校で完全給食を実施しており、安全・安心でおいしい学校給食の提供と、旬の食材や地元産食材の活用などにより内容の充実に努めてきました。

学校給食を無償化することは財政負担が大きく困難を極めますが、近年の物価高騰の影響は子育て世帯にとって大きな経済的負担となっており、小・中学校の学校給食の無償化は子育て支援策として大きな効果が期待できます。

国・県による支援を最大限に活用し、今後も学校給食の無償化を継続しつつ、学校給食が単なる食事ではなく、児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、食に関する正しい知識と食を選択する力を養う上で、重要な役割を果たすものであることを認識し、成長期のこどもたちの健全な育成を支えてまいります。

(8) こどもたちの学びを支える環境の整備・充実

8点目は、「こどもたちの学びを支える環境の整備・充実」で

ございます。

児童の熱中症対策及び快適な学習環境の整備のため、小学校の特別教室の空調整備と体育館の照明のLED化を実施します。

学校における空調整備は、快適性向上にとどまらず、健康面でのリスク軽減や集中力向上など、教育の質や学習意欲の改善にも大きな影響を与えます。これまで、小・中学校の普通教室、中学校の特別教室、体育館について、それぞれ空調整備をすすめてきており、令和8年度からは、令和9年度までの2か年をかけて小学校の特別教室の空調整備をすすめてまいります。

さらに、小学校体育館の照明のLED化についても、令和8年度から令和9年度の2か年で実施します。水銀ランプの製造禁止を機会にLEDへ切り替えることにより、瞬時点灯・再点灯が可能となり、利用環境が向上するとともに大幅な省エネにも繋がります。

また、学校図書館をより魅力あるものにするため、こども提案による「こどもが描く学校図書館づくり」に引き続き取り組み、学校図書館の環境を整備するだけでなく、学校図書館がこどもたちの居場所になり続ける方策を考えてまいります。

さらに、校務DXを推進するため、校務機能をクラウド環境に移行するとともに、校務用と指導用を一体化した教職員用タブレット端末を導入し、教育の質の向上をめざします。

また、校務機能のクラウド化と教職員用端末の一台化により、コミュニケーションの迅速化や活性化が可能となるとともに、ロケーションフリーの柔軟な働き方が可能となります。業務フロー自体の見直しや、データ連携による新たな学習指導など、教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化をめざしてまいります。

以上、重点施策を中心に令和8年度の教育方針について述べさせていただきました。

3 終わりに

公立学校の教室には、家庭環境も、得意なことも、性格も、価値観もバラバラな子が「同じ地域にたまたま住んでいる」という理由で集まっています。様々な子どもたちがいて、その子どもたちが生きていく場であり、公立学校こそが社会の縮図であります。だからこそ私は、丹波市の学校、教育が懐深く、多様な子どもたちを包含し、すべての子どもたちがワクワクしながら毎日登校してくる学校であるように取り組んでまいりました。

不登校とは、子どもたちによる学校評価となっている側面があるといわれています。学校に行けば自分の心理的・身体的安

全性が確保できない。安心して学べない。そう感じる子が不登校という選択をしているのではないのでしょうか。

こどもたちが自分のよさ、他人のよさに気づき、大事にされたり、大事にしたりする中で、自分も人も好きになる。安心して失敗し、安心して学び、安心して意見を言える、そんなこどもが主語の学校をつくりたいと思います。

私はいつも、先生方にこう話しています。「手がかかる」こどもではなく、「手をかけなくてはならない」こどもがいるんだと。周囲の大人がひと手間かけて、こどもの挑戦を見守ることで、こどもは自信を持てるようになります。すべてのこどもたちが安全・安心な環境の中でいきいきと学び、健やかな成長をとげてくれることは社会全体の切なる願いであり、こどもたちが将来への「夢」や「志」を持ち、その実現に向け、思う存分その力を発揮できるような環境を整えることは私たち大人の責務であります。

こどもたちが健全な心身の発達を図りつつ、生涯にわたる人格形成の基礎を培える幼児教育・保育をすすめるとともに、お互いが個々の多様性を認めあい、お互いを信頼しあう学校をめざします。そして、その中で、こどもたちが自由な発想と躍動感を持って、自らの未来を力強く、かつ、しなやかに駆け抜けていけるよう、丹波市の教育の充実・発展に全力で取り組んで

まいります。

議員の皆様、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ、
令和8年度の教育方針といたします。

ご清聴ありがとうございました。